

三重県鉱工業生産及び生産者製品在庫の動き

I 概況 ～ 停滞した鉱工業生産 ～

- ・生産は、前年比△2.7%と2年連続して減少。これは、第1次オイルショック時(昭和49年～50年)以来である。
- ・在庫調整は足踏みしている。

1. 生産の動き

平成5年の県内鉱工業生産指数の年平均は、90.9(平成2年=100)で(年指数については、原指数による。以下同じ。)、対前年比△2.7%の減少となった。四半期ごとの推移についてみると(四半期別指数については、季節調整済指数による。以下同じ。) 1～3月期95.3(対前期比4.1%増)、4～6月期89.5(同6.1%減)、7～9月期93.1(同4.0%増)、10～12月期86.1(同7.4%減)と増減を繰り返した。(表1、図1)

これを業種別に対前年比で見ると、金属製品工業8.6%、プラスチック製品工業5.1%、石油・石炭製品工業3.7%、食料品工業0.6%、パルプ・紙・紙加工品工業0.5%とそれぞれ増加した。一方、繊維工業△9.8%、鉄鋼業△6.9%、電気機械工業△5.2%、輸送機械工業△4.1%、一般機械工業△3.7%、窯業・土石製品工業△3.5%、化学工業△2.4%とそれぞれ減少した。(表3)

また、財別に対前年比で見ると、建設財3.1%、その他用生産財2.0%、非耐久消費財0.8%とそれぞれ増加した。一方、耐久消費財△5.3%、鉱工業用生産財△3.9%、資本財△3.3%とそれぞれ減少した。

2. 生産者製品在庫の動き

平成5年の県内鉱工業生産者製品在庫指数(以下「在庫指数」という。)の年平均は、106.1(平成2年=100)で、対前年比1.3%の減少となった。四半期ごとの推移についてみると、1～3月期105.2(対前期比1.2%増)、4～6月期106.1(同0.8%増)、7～9月期106.2(同0.1%増)、10～12月期107.9(同1.6%増)と増加が続いた。(表2、図1)

これを業種別に対前年比で見ると、輸送機械工業33.4%、非鉄金属工業17.3%、金属製品工業15.2%、一般機械工業11.2%、鉄鋼業6.1%、繊維工業5.6%、パルプ・紙・紙加工品工業5.1%、とそれぞれ増加した。一方、その他工業△41.0%、食料品工業△11.1%、窯業・土石製品工業△10.6%、化学工業△5.5%、石油・石炭製品工業△5.5%、プラスチック製品工業△2.5%とそれぞれ減少した。(表4)

また、財別に対前年比で見ると、資本財が35.1%と増加した以外は、その他用生産財△15.3%、耐久消費財△12.6%、建設財△9.4%、非耐久消費財△8.4%、鉱工業用生産財△3.7%とそれぞれ減少した。(表6)

(参考) 全国の概況

平成5年の鉱工業生産指数は、前年比△4.5%と2年連続して低下した。これは、第1次オイルショック時(昭和49～50年)以来である。

四半期別にみると、1～3月期に前期比0.4%と8四半期ぶりに上昇に転じたが、4～6月期は同△1.5%、7～9月期は同△0.0%と弱含みで推移し、10～12月期は同△3.7%と今回の景気後退局面で最大の下げ幅となった。

(通商産業大臣官房調査統計部編「クォーターIIP 平成5年の生産活動(年間回顧)より抜粋)